

# 平成27年度函館市事業評価調書

平成27年6月作成

整理番号	43	事業名	IT産業振興費		事業の性質別	裁量的経費	区分	
予算事項名	大事項	IT産業振興費		中事項	IT産業振興費		部課名	経済部経済企画課
事業開始年度	平成 26 年度	根拠法令等	なし	<input type="checkbox"/> 法律・政令・省令名( ) <input type="checkbox"/> 道条例, 規則, 要綱等( ) <input type="checkbox"/> 市条例, 規則, 要綱等( )		電話番号	21-3321	

## 1. 事業の目的・必要性と内容 (PLAN) ※この事業を行う目的・必要性は何か。どのような取組を行っているのか。

<b>目的・必要性</b>	<p><b>【目的】</b> 市内IT産業の振興を図るため、市内IT企業の人材確保や地域の情報系高等教育機関の学生との交流などを目的として各種イベント等を開催するものである。26年度事業としてはITカンファレンスを実施し、ITビジネスに携わる経験豊かな講師による講演を通じて、函館地域のIT企業関係者や学生などが、ITに関する新しい動向の共有を図るほか、企業と学生との交流を図り、将来的な人材確保及び基礎的な技術を若い世代へ継承していくためのコミュニティづくりを目的として実施したところである。</p> <p><b>【必要性】</b> ITに関わる技術者や学生がIT技術などの最新の動向を知ることや、地域IT企業とIT技術者を目指す学生の交流を図ることは、市のIT産業振興策の一つとして有益である。</p>
<b>内容</b>	<p>「はこだてIKA」は函館地域の複数のIT企業からなる任意団体であり、会費収入のみで運営されている。そうした事情もあり、これまでIKAだけで大掛かりなイベントを実施することが難しくかったが、市が団体と協力することで、市としては初となる大規模なITカンファレンス「HAKODATE Developer Conference」を開催。</p> <p>本イベントの開催にあたっては、「はこだてIKA」の会員企業が講師の選定・依頼、ポスター・リーフレット作成等の人出を使った事務的作業を一手に引き受け、市は、セミナーの柱となる講師謝金、講師招へい旅費を負担することにより、円滑なセミナー運営を行う。</p>

## 2. 概算総事業費 (DO:コスト) ※事業を行うための費用の状況はどうか。コストがどれくらいかかっているのか。

(単位:人,千円)

		平成24年度決算	平成25年度決算	平成26年度予算	平成26年度決算見込	平成27年度予算	平成28年度予算要求
<b>事業費 (A)</b>		0	0	400	213	450	0
特定財源	国・道						
	市債						
	その他						
<b>一般財源</b>				400	213	450	
事業を実施するために必要な人件費 <small>※人工は小数点第3位を四捨五入しているため、実際に人工がかかっている場合でも0で表示されている場合がある。</small>	職員	人工 0.00	人工 0.00	人工 0.03	人工 0.03	人工 0.03	人工 0.00
	嘱託職員	人工 0.00	人工 0.00	人工 0.00	人工 0.00	人工 0.00	人工 0.00
	臨時職員	人工 0.00	人工 0.00	人工 0.00	人工 0.00	人工 0.00	人工 0.00
	<b>人件費 (B)</b>	0	0	219	219	225	0
<b>総事業費計 (A+B)</b>		0	0	619	432	675	0

3. 活動実績 (DO:アウトプット) ※目的を達成するためにどのように取り組み、その実績はどうか。

活動指標名	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
セミナー開催件数	件			1	

4-1. 成果等 (DO:アウトカム)

※事業の成果指標は何か。

成果指標	ITに関わる技術者や学生が新しい動向を取り込むきっかけづくりとなるようなセミナーを開催することにより市のIT産業振興を図る。
------	--

4-2. 成果等 (DO:アウトカム) ※事業を実施し、どのような成果が得られたのか。

事業の成果等	平成26年に開催したカンファレンスでは、約150名の参加があり、多くの参加者が函館にしながら、最新のITに関する情報に直に触れることができた。また、学生の参加も多く、講演会、展示ともに好評であったことから一定の成果を達成しているものと考えている。
--------	---

5. 事務事業の点検 (CHECK)

評価項目		評価内容	評価内容の説明	評価項目		評価内容	評価内容の説明
必要性	事業の市民ニーズ	高まっている	情報系高等教育機関の集積による優位性を若年層の地元定着、IT企業誘致などに活用するなど、地域課題解決のためにも社会的ニーズは高まっている。	コスト・負担	コストの節減度	節減できている	適正な招へい旅費等の執行に努めている。
	市の関与の妥当性	社会情勢等から関与が妥当			将来コスト増減見込み	評価対象外	
成果・有効性	成果の達成状況	達成している	多くの参加者が函館にしながら最新のITに関する情報に直に触れることができるなど、一定の成果を達成しているものと考えている。	執行方法	受益者負担の適正度	評価対象外	
	事業目的実現のための手段	現手段も有効だが他の手段も考えられる			外部委託の可能性	しづらい性質の事業	
評価結果から明らかになった課題事項など							
実施方法の効率性						図られていない(今後改善の余地あり)	

6. 今後の改善策 (ACTION) ※今後改善する点は何か。どのように進めていくか。

今後の方針 (改善・見直し内容)	基本方針	(事業について) 実施主体となる「はこだてIKA」の財務状況等を勘案し、カンファレンスの規模の縮小や、持続可能なIT関係のイベント開催への変更等、事業自体のあり方を見直すとともに、市の負担する経費等についての見直しを行う。
	改善	(経費について)

参考:他の自治体の状況

比較参考値 (他の自治体の類似事業の状況など)	
-------------------------	--